

島から甲子園 誇り卒業

大高ジャーナル



祝 第73期生

発行所
鹿児島県立大島高等学校
新聞部
奄美市名瀬安勝町7-1

祝卒業・甲子園決定特集号

- 1面 ○73期生進路速報
- 2度目の甲子園出場決定
- 2面 ○喜び爆発甲子園出場
- 大高ナインの見所分析

大高ミニギャラリー



「日本一」と書かれたエース大野君の帽子



奄美大島
奄美大島 = 鹿児島県本土から南西約370km、面積712.35km²、広さ日本5位(本州等4島除く)の島、亜熱帯海洋性気候、奄美群島国立公園の一部

大高坂

本校野球部は、1月28日(火)、「二度目の甲子園出場」という念願を達成した。離島公立高校ならではのハンデに負けることなく努力し続けた成果に、大きな賞賛の声が寄せられた。▼そんな歓喜に沸く本校から、第73期生が卒業の日を迎えた。彼らもまた、野球部同様、様々な苦難を乗り越えてきた。2019年12月に新型コロナウイルスの感染拡大が報じられて以来、彼らは高校生活に大きな不安を抱えることとなった。2年生の4月中旬には、緊急事態宣言により学校は約1ヶ月の休業となり、学校が再開してからも体育祭等の学校行事は軒並み中止となった。しかし、彼らはこの次々と変化する環境の中でもその苦難に負けることなく前進し続けた。▼2年ぶりに行われた今年度の体育祭では、本校名物の体育祭の伝統を途切れさせないよう応援団等の技能継承に取り組みが見られた。不利な環境の中でも、自分達の責務を自覚して行動する姿に、私達は頼もしさを覚えた。いよいよ新しい舞台に飛躍する3年生。コロナ禍を乗り越えたくましく、さらに活躍していく(野崎 暁)



日本高野連からの電話に
応対する黒木校長

第94回選抜高校野球大会の選考委員会が行われた1月28日、九州大会で準優勝したことから本校野球部の甲子園出場が確実視される中、校長室では、黒木哲二校長が30名以上の報道陣に囲まれ、出場推薦の電話を待った。発表開始の時間から40分以上が経過し、じりじりとした雰囲気漂う中、午後3時45分頃、鳴り響く着信音に校長は速やかに応対し「謹んでお受けいたします」と回答。本校野球部のセブンアウト出場が決定した。校長は、「たくさんの報

接等で自分の実績をアピールできる生徒が多かった他、出願先についても例年以上に慎重に検討した生徒が多く、学校推薦型入試の合格者が多かった。推薦型入試の合格者は、文章力・自信があった。進路支援部の高橋大輔先生は、「推薦型選抜や総合型選抜において活動実績だけでなく、学力を問われる場合が多くなっている。1・2年生は基礎学力を付けることを重視してほしい」と強調した。(畠山 生)



高野連からの電話を待ち緊張した雰囲気の中校長室

甲子園出場が確実視される中、校長室では、黒木哲二校長が30名以上の報道陣に囲まれ、出場推薦の電話を待った。発表開始の時間から40分以上が経過し、じりじりとした雰囲気漂う中、午後3時45分頃、鳴り響く着信音に校長は速やかに応対し「謹んでお受けいたします」と回答。本校野球部のセブンアウト出場が決定した。校長は、「たくさんの報

推薦入試等で国公立大17名合格 卒業生進路速報

令和3年度卒業生の進路状況(2月22日現在)は、合格者の延べ数で、4年制大学66名、短大14名、専門学校81名、就職15名となっている。主な大学の合格として、国立大学が筑波大学2名、広島大学1名、熊本大学1名、鹿児島大学4名など9名、私立大学では津田塾大学、法政大学、立命館大学等の

推薦型入試の合格者増加
今年度は、志望理由書や面接等で自分の実績をアピールできる生徒が多かった他、出願先についても例年以上に慎重に検討した生徒が多く、学校推薦型入試の合格者が多かった。推薦型入試の合格者は、文章力・自信があった。

進路支援部の高橋大輔先生は、「推薦型選抜や総合型選抜において活動実績だけでなく、学力を問われる場合が多くなっている。1・2年生は基礎学力を付けることを重視してほしい」と強調した。(畠山 生)

進路支援部の高橋大輔先生は、「推薦型選抜や総合型選抜において活動実績だけでなく、学力を問われる場合が多くなっている。1・2年生は基礎学力を付けることを重視してほしい」と強調した。(畠山 生)

進路支援部の高橋大輔先生は、「推薦型選抜や総合型選抜において活動実績だけでなく、学力を問われる場合が多くなっている。1・2年生は基礎学力を付けることを重視してほしい」と強調した。(畠山 生)

大高高校 野球部メンバー表

(九州地区高校野球大会)

背番号	名前	クラス・出身中	ポジション
1	大野稼頭央	2-5 龍南	投手
2	西田心太郎	2-2 金久	捕手
3	田邊 瑛吉	1-1 朝日	一塁手
4	有馬 航大	1-5 小宿	二塁手
5	前山龍之助	2-5 朝日	三塁手
6	武田 涼雅	2-2 朝日	遊撃手
7	青木 蓮	2-3 朝日	左翼手
8	中 優斗	2-4 笠利	中堅手
9	直江 朝日	2-2 伊仙	右翼手
10	白畑勝喜郎	2-5 龍南	外野手
11	関 凜太郎	1-2 朝日	内野手
12	栗飯原雄斗	2-5 園田東	内野手
13	美島 永宝	2-3 金久	内野手
14	上原賢寿郎	2-3 金久	内野手
15	体岡 大地	1-1 喜界	内野手
16	屋井 智稀	2-6 金久	内野手
17	竹山 陸斗	2-4 赤木	外野手
18	山下 侍真	2-2 赤木	外野手
19	田畑 翔琉	1-1 金久	外野手
20	川崎 大雅	2-3 朝日	外野手

甲子園出場が決定し、多くの報道陣を前に、喜びを爆発させる大高野球部



地、阪神甲子園球場に、安陵球児が帰ってくる。

第94回 選抜高校野球大会 出場へ

喜び爆発

甲子園ベスト8めざす

1月28日、本校野球部の第94回選抜高校野球大会出場が正式に決定した。21世紀枠での出場となった2014年以來、二度目となる快挙に、島全体が沸いている。昨秋の九州大会で準優勝を掴んだ選手はもろもろ、2014年の最優秀賞に輝いた応援にも注目した。

高校野球の聖地、阪神甲子園球場に、善戦し、多くの人の記憶に、大高高校というチームについて、分析したい。

新聞部記者 大高ナインの見所分析

プレススタイルは、「エンジョイイング・ベースボール」。自分たち、対戦相手、観客のすべてが楽しいと思える野球を掲げている。塗木哲哉監督は基本的に打って撃つ攻撃方針だが、九州大会ではバントヒットが生まれるなどの奇襲も見られた。塗木監督自身も初めてとなる甲子園での采配に注目したい。絶対的エース・大野稼頭央は最速146キロの直球と精度の高いカーブが生命線。三振を量産する投球だけでなく、凡打の山を築く技巧派の一面も持ち合わせていて、甲子園での活躍が楽しみだ。九州大会準決勝・有田工との一戦では、球数制限の影響もあり大野の登板がかわらず、一時は5点を追う厳しい展開となったが、2回途中からマウンドに上がった主将・武田涼雅が好救援で流れを変え、打線が6回に5点を奪うなど



野球部は、部員32名とマネージャー5名。「練習は厳しく、試合はエンジョイイングベースボールで(塗木監督)をモットーにチームワークの良さも強さの秘訣。奄美の桜、ヒカンザクラの前で氣勢を上げる。

主将・エース抱負を語る 「打ってつなぐ」 野球見せたい



主将 武田涼雅君 (2-2朝日中)

昨年の九州大会で準優勝となり、甲子園はほぼ確実だった。予想は違っていたが、甲子園出場決定の知らせを聞いたときはやはりとても嬉しかった。チームメンバーへの感謝の思いが溢れてきました。今は甲子園に向けてチームの課題である「得点力」をつけるために、個人個人が今まで以上にバットを振っています。そのおかげが九州大会のときに比べて、大高野球部の本来の野球スタイルである「打ってつなぐ野球」が実現できるようになってきました。ですが、まだまだ改善点があります。ギリギリまで全員で課題を

速球と緩急 使い分け意識



ピッチャー 大野稼頭央君 (2-5龍南中)

甲子園出場が決まり、ホッとしているのと嬉しい気持ちでいっぱいです。また、甲子園出場決定後、野球に

吹奏楽部・ダンス部・新聞部 甲子園応援への意欲十分

昨年11月、高校野球九州大会準々決勝に急遽、学校応援団として海を越えて派遣された吹奏楽部、ダンス部、新聞部は、甲子園球場において、応援団の中心としての役割を果たそうと意欲を燃やしている。新型コロナウイルスの感染拡大を受け、どのような形の応援が許されるのか日本高野連の判断が待たれるが、現在、有観客で実施の方向で検討が進んでいるようだ。



九州大会準々決勝で大高応援団をリードする吹奏楽部とダンス部、新聞部の記者も取材に奔走した。

吹奏楽部部長の田川海空さん(2-13小宿中)

吹奏楽部が練習中の個人応援歌の一部

ファンファーレ(天理高校) ※ヒット
大高ファンファーレ(優勝歌) ※点入り
いねすり節